

2024.12.1

141

もくじ

③

特集

まつりと民俗芸能の現状と課題

佛教大學歴史学部教授

八木 透

②

ごあいさつ / 財団のあゆみ

⑧

保護財団の活動

てくてく文化財まち歩きのススメ (第4回)

鴨川沿いの花街めぐり (後編) / 祇園町から鴨川へ

京都市文化観光資源保護財団

アドバイザー

松田 彰

# 会報

(公財)京都市文化観光資源保護財団

設立55周年記念特別号(後編)





# ごあいさつ

公益財団法人京都市文化観光資源保護財団  
理事長 和田林 道宜

この度、京都市文化観光資源保護財団は、設立55周年を迎えました。当財団は、戦後の急速な都市開発が進められる中、存続が危ぶまれた京都の文化財を後世に保存伝承することを使命に、昭和44（1969）年12月に設立されました。設立以来、伝統行事・芸能の保存継承、有形文化財の保護等への助成、文化財に関心を持っていただく普及啓発事業等の活動をおこなってまいりました。今日まで事業が継続できましたのは、当財団の会員の皆様方、京都市をはじめ関係者、保存会、市民の皆様方からのお支えの賜物と存じ、心より感謝申し上げます。

この数年は2020年からの感染症流行に代表されるように、社会経済情勢の変化が激しく、当財団の運営にとりましても厳しい状況にあります。設立当初の使命を引継ぎ、文化観光資源の保護に努めてまいり所存でございます。

令和6年12月

## 財団のあゆみ

昭和44（1969）年  
12月

京都の文化財を後世に引き継ぐため、関西財界・文化人など各界有志のご支援、京都市の出捐金、京都市はじめ全国から寄せられた寄附金を基金として設立されました。設立時より全国の法人・個人の皆様からのご支援金を基金として、京都の四大大行事や伝統行事・芸能、そして国などの補助の及ばないものに対し助成を行うことを通して所有者や保存会の方々の活動をお支えしてきました。



設立時の理事会

昭和45（1970）年  
10月

第1回「郷土芸能の夕」開催。  
平成24（2012）年2月開催の第42回「京の郷土芸能まつり」まで毎年開催し、以降不定期開催。



昭和47（1972）年  
1月

会報第1号発行。



平成23（2011）年  
4月

公益財団法人に認定。

現在

昭和45（1970）年から令和6（2023）年までに助成した延べ件数は4088件、交付した助成金総額は35億6900万円にのぼっております。今後はこの保護事業に加えて、全国の皆様へのPR不足の課題に取り組み、以前から行っている普及事業をさらに発展させ、京都の文化財や財団の活動の普及啓発事業にますます積極的に取り組んでいきます。

# まつりと民俗芸能の現状と課題

佛敎大学歴史学部敎授

八木 透



昨今、まつりや民俗芸能を取りまく環境は一段と厳しいものとなっている。生活環境のグローバル化による社会全体の変容、少子高齢化、さらに担い手たちの意識変化などが背景にあると考えられる。

## まつり・民俗芸能の不易流行

「伝統」とは、ある社会や集団が長い歴史の中で培い、人々の精神性に大きな影響を与えてきた信仰・思想・行事などを指す。長い歴史を有するまつりや民俗芸能は、その意味では伝統であるといえる。伝統は一面で不変でありながら、一面では変化するという性格も併せ持つ。つまり変化する側面と変化しない側面があるということである。それぞれのまつりや民俗芸能の本質の意味を考えると、何が変化して、何が変化しないのか。換言すれば、変化してもよい部分は何で、変化させてはいけない部分は何なのか、すなわち不易流行について慎重に考える必要があると思われる。

たとえば、祇園祭は1150年余の歴史を有するが故に、これまで幾多の変革を経験してきた。その中から、近年の変化について考えてみよう。明治維新により、仏教の祭礼から神道の祭礼へ変わった。すなわち「祇園会」から「祇園祭」への変革である。明治初年の神仏分離で祇園社は八坂神社に改名する。同時に祭神も仏教系の牛頭天王は廃され、スサノオノミコトを主神とする神道系一色に改められた。また改暦によって祭日も新暦の7月になった。これら一連の変化は、大きな時代の波の中でやむなく行われた変革であると考えられよう。また戦後には、山鉾の巡行路の変更が行われている。すなわち1956年以降は何段かに分けて、巡行路が河原町通りや御池通りなどの広い道へと変更され、1961年以降は現在と同じ巡行路に改められた。これも近代化の中で行われた、いわばマイナーチェンジ

だということができる。しかし1966年になって観光客への配慮やその他の理由から、先と後のまつりが合体して山鉾巡行は7月17日だけとなった。筆者は、これはまさに祇園祭の「不易」、つまり変えてはならない変革だったのではないかと考えている。幸いにして2014年より、49年ぶりに24日の後祭山鉾巡行が復活し、ここに祇園祭本来の神輿渡御に先だつて山鉾が巡行するという姿が蘇った。

## まつり・民俗芸能のグローバル化

祇園祭では、鉾曳きや手伝い方はすでに外国人や学生、他地域の人々へ開放されている。学生を中心とした他地域の人々や外国人の応援なくして、今日の祇園祭山鉾行事は成り立たないという事実を認識する必要がある。一方で、祇園祭における「女人禁制」の問題をいかに考えるかが問われているように思う。この問題こそ、単なる「伝統」という視座からだけでなく、グローバルな視座から未来のあり方を模索する必要がある



六斎念仏

あるといえるのではないか。六斎念仏や大念仏狂言では、近年になって女性が積極的に参加する体制が急速に進んできている。京都という都市の特質として、たとえば観光や学術面では非常にグローバル化を遂げている反面、一方で産業構造や住人の意識面においてはグローバル化が遅れているという指摘がある。特に祇園祭のような伝統ある祭礼においては、ジェンダーレス化の実現はまだまだ遠いように思われる。祇園祭に関わる人たちは、保守と変革両者の狭間でもがいているのかもしれない。祇園祭がさらにグローバル化することは、京都の町全体がグローバル化することに繋がると考えられる。このことは決して祇園祭のみならず、他の多くのまつりや民俗芸能に関してもあてはまる問題だけに、熟考してゆく必要があるといえるだろう。

## コロナ禍とまつり・民俗芸能

2020年正月より世界を襲った新型コロナウイルス感染症により、日本でも様々な側面で未曾有の事態が起きた。この病は人と人との接触によって感染が広がるということから、暮らしの中での三密を避けることが強く国民に課せられることとなり、そのために大規模な祭礼や民俗芸能が軒並み中止に追い込まれた。まつりや民俗芸能は技術や芸を絶えることなく継承してゆくことが必須であることから、コロナ禍でのまつりや芸能公演の中止、あるいは大幅縮小という事態は、その存続にかかわる一大事となり、多くの関係者たちの頭を悩ませることとなった。

2020年と2021年は、祇園祭では山鉾巡行と神輿渡御は行われなかった。祇園祭の本来の目的は、疫病の原因と考えられた悪霊たちを御旅所に集め、神の霊力でその威力を削ぎ、都の外へ送り出すことにあったことから、このような決定には少なからぬ批判も寄せられた。両



御神靈渡御祭

年には、八坂神社では神輿に替わって3基の「神籬」すなわち榊を神の依代とし、そこへ神を乗り移らせて、馬に乗せて神幸祭には本社から四条寺町の御旅所へ渡し、還幸祭には御旅所から本社へ戻したのである。さらに各山鉾町からは、17日と24日それぞれ、代表者一人が榊を持って御旅所まで徒歩巡行した。つまり、神輿渡御と山鉾巡行自体は中止になったが、八坂神社の神は例年通り御旅所へやってきて、各山鉾町から集められた悪霊たちを鎮圧するための神事がきちんと行われたのである。

一方で2020年は、山鉾建ては一切行われなかった。また2021年は、33基の山鉾のうち約半数は建てられたが、残りの約半数は2年続けて山鉾建ては行われなかった。山鉾の中で特に大型の鉾や曳山は複雑な構造を有し、縄がらみという特殊な技法を用いて建てられるがゆえに、2年間の空白ができてしまうことで、その技術の継承が極めて困難になることは想像に難くないだろう。事実、2021年に鉾建てを行った人たちは、1年のブランクがあっただけで鉾が完全に立ち上がるまでの所要時間が通常の2倍近くかかったという声も聞いた。祇園祭の山鉾は他地域の山・鉾・屋台と異なり、祭礼期間の約一週間だけの仮設の構造物であるだけに、祭礼期間以外で練習をしながら技術を若手に伝授してゆくことができない。よってその継承が非常に困難になるのである。さらに山鉾巡行は2年間中止されたことにより、車方による大型の山鉾の移動、とくに辻回しは3年ぶりに行われることになった。やはりここでも、久しぶりの行為となったがゆえに、コロナ前と比べて相当な時間を有したと思われる。

ところで、嵯峨大念佛狂言では、2020年3月15日(日)は感染予防のため清凉寺のお松明式が中止となり、狂言堂奉納公演も中止した。また4月の春季公演も中止としたが、奉納稽古として3日間、演目を通常3演目を2演目として自主公開した。告知はせず清凉寺境内の通行者や観光客対象に狂言堂で実施した。また秋季公演は中止し、奉納稽古「土蜘蛛」として狂言堂で自主公開した。2021年と2022年も前年とほぼ変わらぬ形であった。

また千本ゑんま堂大念佛狂言でも、2020年4月から2022年4月頃までの2年間は、公演の中止や延期、あるいは無観客公演が相次いだ。2023年4月以降は、ようやく通常の公演開催ができるようになった。コロナ禍前後でもっとも変化があったのは、小中学校の修学

旅行公演だという。2019年までは、中部や山陽地方からの多くの修学旅生を対象に公演を実施してきたが、コロナ禍によってほぼすべての公演は中止となり、現在でも依頼が激減している状況だという。



大念仏狂言

このように、コロナ禍においては多くのまつりや民俗芸能が軒並み中止、あるいは大幅な縮小を余儀なくされた。このような状況下において、演技や技術の継承問題以外に危惧されるのは、祭礼に携る人たちのモチベーションが維持され続けているかどうかという問題である。他地域の比較的小規模のまつりで、度重なる中断によって支えてきた人々の士気が極端に低下してしまい、今後は祭の大幅な縮小、さらに挙句の果てにはまつりを休止することを決断したという話も聞いた。このような事態の背景には、複数年に及ぶまつりの中止により、それまで苦労を重ねながら何とかまつりを維持してきた人たちの心が折れてしまい、まつり存続の意義を見出せなくなってしまったという状況があったに違いない。誠に悲しむべき事態である。筆者は、コロナ禍がまつりや民俗芸能に与えた負の影響の中で、もっとも憂慮しなければならないのはこの点ではないかと考えている。この問題は、想像以上に重大だといえるだろう。

## 「京の郷土芸能のつどい」の意義

2025年2月22日には、財団の設立55周年を記念して、ロームシアター京都メインホールで「京の郷土芸能のつどい」が開催される。そこでは六斎念仏やゑんま堂大念佛狂言の他、京都鬼剣舞や広島県の芸北神楽も披露される。コロナ禍がようやく落ち着いてきた時期に、このような大きな民俗芸能大会が開催される意義は想像以上に大きいといえるだろう。先述のように、まつりや民俗芸能は毎年継続して行われることがもっとも大切なことであり、特にこのたびの公演のように、大きな舞台で大勢の観客を前にして行う公演はきわめて重要である。コロナ禍において、多くの民俗芸能が無観客で公演を行ったようだが、無観客では、どうしても演者の士気が高まらないのは当然のことだろう。芸能である以上、観客の存在は絶対的な意味を持つ。その意味においても、このたびの「つどい」の開催には多方面から大きな期待が寄せられている。監修者の立場である筆者としては、公演が成功裏に終わられることを祈念して止まない。



六斎念仏

(写真はすべて八木氏提供)

## 表紙解説

### 「六斎念仏の練習風景」

財団では、毎年財団の活動を知っていただくための普及啓発ポスターを作成しています。今年度は新たな取り組みとして、より幅広い年齢層の方々に京都の伝統行事・伝統芸能などの文化財に触れるきっかけにしたいという思いから、京都の夏の風物詩として親しまれている六斎念仏を題材にポスターを作成しました。製作にあたっては京都中堂寺六斎会の皆さんにご協力頂きました。またイラストレーターの526さんに実際の公演に取材に来ていただき、四つ太鼓などの楽器も含め六斎念仏の雰囲気をも丁寧に描写して頂きました。

(イラスト／526 協力／京都中堂寺六斎会)

## 会員寄附者 芳名録

ご支援・ご協力ありがとうございました

### 一般寄附金 芳名録 (敬称略)

ご寄附をいただきました皆様のご芳名を掲載させていただきます。名簿は寄附受納順にご紹介しています。

2024.6.1～2024.9.30

#### 法人

##### [特別会員]

北野天満宮 宮司 橋重十九 (京都市)

##### [普通会员]

京都シニア観光ガイド倶楽部 櫻井勉 (京都市)

上鳥羽橋上鉦講中 代表 川勝義弘 (京都市)

宗教法人聚光院 小野澤虎洞 (京都市)

上賀茂やすらい踊保存会 会長 藤井寿一 (京都市)

公益社団法人京都市観光協会 (京都市)

株式会社田中長奈良漬店 代表取締役 田中長兵衛 (京都市)

車折神社 宮司 高田能史 (京都市)

宗教法人林丘寺 (京都市)

妙顕寺 及川日周 (京都市)

ほか匿名1件

##### [賛助会員]

株式会社ブッシュクロフィード 代表取締役 萩原達弥 (東京都渋谷区)

白川プロジェクト株式会社 代表取締役 山岡景一郎 (京都市)

株式会社ゼータ (京都市)

神泉苑大念佛狂言講社 (京都市)

株式会社天空P R 代表取締役 並河洋介 (京都市)

#### 個人

##### [特別会員]

伊勢 初枝 (京都市)

伊勢 和夫 (京都市)

伊勢 芳夫 (尼崎市)

佐藤 正年 (京都市)

岡 雅之 (京都市)

中井 卓治 (愛知県弥富市)

川嶋 博 (さいたま市)

川嶋 純子 (さいたま市)

林 節治 (京都市)

渡邊 正勝 (横浜市)

吉川 克枝 (京都市)

ほか匿名5名

##### [普通会员]

岩切久美子 (京都市)

堀内 極 (横浜市)

芦田 千加 (向日市)

宮崎 秀夫 (京都市)

和田林道宜 (奈良市)

横山 功 (高槻市)

宗宮 博 (岐阜県大垣市)

尾嶋 遣一 (愛知県刈谷市)

川原 勝信 (京都市)

野田 淑子 (京都市)

青山 正男 (京都市)

堀籠 幹雄 (京都市)

山下 淑夫 (京都市)

万代 浩明 (堺市)

中島 弘益 (京都市)

磯部 守孝 (京都市)

富岡みさを (京都市)

米田 功 (大阪市)

岡本 修 (城陽市)

星川 茂一 (大津市)

仲本 仁江 (草津市)

川嶋 秀幸 (さいたま市)

新納麻衣子 (京都市)

高見 陽仁 (奈良県王寺町)

安廣 哲幸 (神戸市)

楠原 大介 (たつの市)

中村 文保 (守山市)

中村真奈美 (守山市)

土橋 耕治 (京都市)

田畑 勇 (岐阜県揖斐川町)

田中 照人 (京都市)

稲鍵美智代 (八幡市)

中村由美子 (東京都世田谷区)

林 弘光 (石川県小松市)

川口 幸司 (名古屋)

牧原 圭志 (長野県安曇野市)

栗原 勝彦 (東京都板橋区)

竹中 祥介 (吹田市)

中尾 明美 (京都市)

豊岡 利彦 (京都市)

川並 宇 (神戸市)

佐々木 清 (京都市)

石田 浩幸 (奈良県明日香村)

ほか匿名13名

##### [賛助会員]

由里 啓子 (京都市)

山林 美喜 (名古屋市)

小林 立幸 (京都市)

岩井 栄司 (京都市)

大原千恵子 (吹田市)

伊藤 文隆 (城陽市)

岸松 美鈴 (大阪市)

堀川 潤 (京都市)

林 美保 (京都市)

ほか匿名2名

### 京都の文化遺産を守り伝える活動の輪を更に広げるために

#### 皆様のご支援・ご協力をお願いいたします

- ◇皆様からの寄附や新しい会員の呼びかけに一層のご支援とご協力をお願いいたします。また、当財団の活動を紹介していますパンフレットの配布・設置にもご協力下さい。
- ◇寄附金は、税の優遇措置を受けていただけます。当財団は「公益財団法人」として認定を受けておりますので、寄附金は特定公益増進法人として税制上の優遇措置が適用され、個人の方は確定申告により所得税の控除を、法人においては法人税の損金算入が認められています。

# 伝統行事・伝統芸能後継者育成のためのクラウドファンディング

## ご協力ありがとうございました

### ＝ 特定寄附金 芳名録 (敬称略) ＝

2024年8月9日から11月8日の間、京都の伝統行事・伝統芸能後継者育成に用途を特定したクラウドファンディングを実施し、多くの皆様からのあたたかいご支援・ご協力のおかげをもちまして、目標金額を達成することができました。改めまして、誠にありがとうございました。

ご寄附を頂きました皆様のご芳名を掲載させていただきます。名簿は寄附受納順にご紹介しています。

#### 法人

京都府旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長 磯橋輝彦 (京都市)  
久保商事株式会社 代表取締役 久保善昭 (京都市)  
大松株式会社 代表取締役 小澤達也 (京都市)  
株式会社三菱UFJ銀行京都支店 執行役員京都支店長 柳瀬忠弘 (京都市)  
宗教法人頂法寺 池坊専永 (京都市)  
税理士法人新納会計事務所 代表社員 新納麻衣子 (京都市)  
西日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 長谷川一明 (大阪市)  
株式会社京都東急ホテル 専務取締役 奥村浩二 (京都市)  
株式会社大垣書店 代表取締役 大垣守弘 (京都市)

#### 個人

石原 秀樹 (京都市)	吉田良比呂 (京都市)	草木 大 (天津市)
佐藤 正年 (京都市)	伊勢 初枝 (京都市)	伊勢 芳夫 (尼崎市)
豊原 弘行 (京都市)	村上 圭子 (京都市)	芦田 千加 (向日市)
綿谷まり子 (香川県高松市)	松本和加子 (京都市)	菊井 誠 (京都市)
岡本 修 (城陽市)	中村 倫典 (京都市)	星川 茂一 (天津市)
村上 忠喜 (京田辺市)	塚本 稔 (京都市)	山本 達夫 (京都市)
後藤 久典 (京都市)	藤井宏一郎 (京田辺市)	大橋 祥江 (岐阜県大垣市)
畑中 伸夫 (木津川市)	Villa Kaoru (木津川市)	柳瀬 彩子 (京都市)
鈴木 寿一 (埼玉県上尾市)	中泉 拓也 (横浜市)	陸 奕丞 (京都市)
野村彩也香 (吹田市)	大澤 利幸 (神奈川県川崎市)	高見 陽仁 (奈良県王寺町)
布柴 達男 (東京都国立市)	内田 俊彦 (東京都武蔵野市)	加瀬 智美 (岸和田市)
松井 理恵 (長野県佐久市)	園田 華子 (京都市)	林 節治 (京都市)
今井 章博 (名古屋)	三浦 裕子 (埼玉県川口市)	大野 雅男 (八尾市)
大垣 守弘 (京都市)	佐藤 寧子 (京都市)	山口伸一郎 (高槻市)
島岡 佳弘 (京都市)	沼倉 幸子 (静岡県富士市)	古瀬ゆかり (京都市)
和田林道宜 (奈良市)	永津 国明 (静岡市)	永尾 正章 (京都市)
万木 香理 (京都市)	田畑 勇 (岐阜県揖斐川町)	宮崎 秀夫 (京都市)
近藤 隆 (神奈川県相模原市)	後藤 和子 (京都市)	田中 照人 (京都市)
松田 彰 (天津市)	島田 登仁 (東京都八王子市)	栗山 圭子 (京都市)
藤田 茂 (東京都杉並区)	板原 征輝 (大阪市)	小林 孝夫 (京都市)
中西 朋子 (京田辺市)	角田 真也 (横浜市)	大森 恵子 (京都市)
岩崎 勉 (京都市)	中村 潤子 (京都市)	岸本 芳明 (京都市)
本郷 睦代 (京都市)	岩崎雄一郎 (京都市)	牧谷裕美子 (富山市)
川妻 聖枝 (京都市)	中谷 香 (京都市)	北野 功治 (京都市)
遠藤由美子 (埼玉県和光市)	赤井 明子 (京都市)	

ほか匿名41名

# 保護財団の活動

## 文化観光資源保護事業

令和6年度文化観光資源保護事業に  
51件の助成申請がありました。

年度当初に文化観光資源保護事業の助成申請の受付を行いましたところ、51件の申請書の提出がありました。申請のあった保護事業は、下記のとおりです。

今後事務局において各事業の現地調査、資料収集などを行い、選定資料を作成のうえ、専門委員会に諮問し本年度の助成対象を決定します。

### (1) 文化財所有者、管理者等の行う

文化観光資源保護事業に対する助成 5件

保護事業者	事業内容
春浦院（右京区）	障壁画修理
良正院（東山区）	木造阿弥陀如来立像修理
迎称寺（左京区）	木造童子形立像修理
地藏寺（左京区）	木造地藏菩薩坐像修理
法輪院（左京区）	木造阿弥陀如来立像修理

### (2) 伝統行事、伝統芸能保存及び執行に対する助成

#### 1) 伝統行事・伝統芸能の保存に対する助成 2件

保護事業者	事業内容
(公財)祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾修理事業
京都五山送り火連合会	五山送り火各山火床整備事業

#### 2) 伝統行事、伝統芸能の執行・公開に対する助成

#### ○伝統行事 19件

保護事業者	事業内容
葵祭行列協賛会	葵祭行列の執行
祇園祭協賛会	祇園祭山鉾巡行 〳
京都五山送り火協賛会	京都五山送り火点火 〳
時代祭協賛会	時代祭行列 〳
嵯峨お松明保存会	嵯峨お松明行事 〳
賀茂競馬保存会	賀茂競馬 〳
藤森神社駈馬保存会	藤森駈馬 〳
糺の森流鏑馬神事保存会	糺の森流鏑馬 〳
鞍馬山竹伐り会式保存会	鞍馬竹伐り会 〳
花脊松上げ保存会	花脊松上げ 〳
広河原松上げ保存会	広河原松上げ 〳
雲ヶ畑松上げ保存会	雲ヶ畑松上げ 〳
小塩松上げ保存会	小塩松上げ 〳
烏相撲保存会重陽社	烏相撲 〳
西之京瑞鎮神輿保存会	西之京瑞鎮祭 〳
北白川伝統文化保存会	北白川高盛御供 〳
日野裸踊保存会	日野裸踊 〳
鞍馬火祭保存会	鞍馬火祭 〳
桂川舟渡し保存会	松尾神社桂川舟渡御行事 〳

### ○伝統芸能 24件

保護事業者	事業内容
蹴鞠保存会	蹴鞠の公開
壬生大念仏講	壬生狂言 〳
神泉苑大念仏狂言講社	神泉苑狂言 〳
千本ゑんま堂大念仏狂言	千本ゑんま堂狂言 〳
嵯峨大念仏狂言保存会	嵯峨狂言 〳
久世六斎保存会	久世六斎 〳
中堂寺六斎会	中堂寺六斎 〳
梅津六斎保存会	梅津六斎 〳
小山郷六斎念仏保存会	小山郷六斎 〳
千本六斎会	千本六斎 〳
壬生六斎念仏講中	壬生六斎 〳
嵯峨野六斎念仏保存会	嵯峨野六斎 〳
西院六斎念仏保存会	西院六斎 〳
桂六斎念仏保存会	桂六斎 〳
上鳥羽橋上鉦講中	上鳥羽六斎 〳
西方寺六斎念仏保存会	西方寺六斎 〳
川上やすらい踊保存会	川上やすらい花 〳
今宮やすらい会	今宮やすらい花 〳
玄武やすらい踊保存会	玄武やすらい花 〳
上賀茂やすらい踊保存会	上賀茂やすらい花 〳
久多花笠踊保存会	久多花笠踊 〳
八瀬郷土文化保存会	八瀬赦免地踊 〳
(公財)松ヶ崎立正会	松ヶ崎題目踊 〳
番匠保存会	番匠儀式 〳

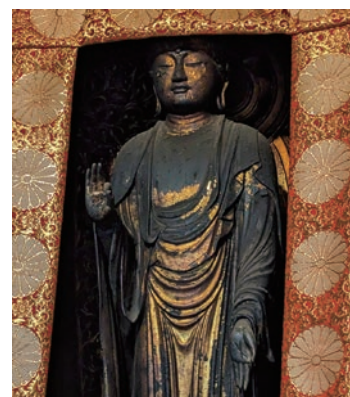
### (3) 文化観光資源をとりまく自然環境の保全及び

その整備に対する助成 1件

保護事業者	事業内容
(公財)京都古文化保存協会 (上京区)	文化財周辺松喰虫等駆除事業

## 法輪院の仏像修理

京都市左京区の天台宗法輪院は、真如堂の通称で知られる真正極楽寺の塔頭寺院です。今回修理を行う木造阿弥陀如来立像は、室町時代の作で当院の本尊でもあります。檜材で、像高80.02cmを測ります。前後に材を割り放ち、<sup>うちぐり</sup>内刳りを施して再び<sup>は</sup>刳ぎ合わせる割刳造という技法を用いています。経年により全体に剥落が進行している他、下地が露出する箇所がみられること等から修理を行うこととされました。





## 普及啓発事業を開催しました

### 伝統文化親子教室「京の伝統文化を体験しよう！—京の文化財体験教室—」

2021年度から開催している、伝統文化親子教室も今年で4回目の開催となりました。今年は7月から10月にかけて、全3回の体験をおこないました。

第1回「祇園祭を体験しよう」では、祇園祭山鉾連合会の木村理事長から祇園祭の歴史や継承の思いを講演頂き、その後放下鉾でお囃子体験、南観音山で山の搭乗体験をおこないました（協力：（公財）祇園祭山鉾連合会、（公財）放下鉾保存会、（公財）南観音山保存会）。



第2回「大念仏狂言をやってみよう」では、嵯峨の清凉寺にて嵯峨大念仏狂言の動きの体験や面付体験をおこない、狂言の演技の難しさと魅力を体験しました（協力：嵯峨大念仏狂言保存会）。



第3回「蹴鞠をやってみよう」では、白峯神宮にて蹴鞠体験をおこない、相手を思いやっつて鞠をつなぐ蹴鞠の伝統を体験しました（協力：蹴鞠保存会）。



### 文化財講座 「京都三山の植生変遷と五山送り火」

10月4日、京都アスニーと共催で文化財講座を開催しました。京都精華大学名誉教授であり、当財団専門委員でもある小椋純一先生にご講演頂き、約200名の多くの方々にご来場いただきました。



### 「京都の文化財を描こう」 子ども絵画コンクール表彰

今年は世界遺産「古都京都の文化財」登録30周年の

記念の年です。これを記念して、「明日の京都文化遺産プラットフォーム」主催で子ども絵画コンクールが開催されました。京都府内および津市内の文化財を題材に小学生から作品が募集され、当財団からも財団理事長賞を授与させて頂きました。



## 会員事業を開催しました

### 祇園祭前祭山鉾巡行観覧事業（7月17日）

今年も市役所前の辻回しの見える財団特設席に多くの皆様にお越しいただき、熱気あふれる豪華絢爛な山鉾巡行を観覧して頂きました。



### 時代祭時代行列観覧事業（10月22日）

当日は過ごしやすい天候となり、2基の御鳳輦を中心とした神幸列、それに供する各時代行列が巡行しました。京都御苑の財団特設観覧席にも多くの皆様にお越しいただきました。



### 「風俗博物館」招待事業

今年の大河ドラマでも話題の平安時代の風俗や衣装を人形や模型を用いて具現的に展示された「風俗博物館」にご招待し、申込頂いた方々へ観覧券をお送りしました。

### 京都古文化保存協会主催「令和6年第60回 京都非公開文化財特別公開」招待事業

社寺等が所蔵する文化財の特別公開事業にご招待し、申込頂いた方々へ観覧券をお送りしました。

## 夏〜秋の行事

### 桂六斎念仏

8月22日夜、桂の地蔵寺にて本尊地蔵菩薩に桂六斎念仏の奉納がおこなわれました。全演目をおこなう一山打ちは30年ぶりのことで、多くの人で賑わっていました。



### 北白川高盛御供

10月6日、北白川高盛御供がおこなわれました。北白川天神宮の秋季大祭の始まりを告げる献饌の神事で、前日から北白川伝統文化保存会の皆さんの手により、高く盛り付けられた神饌が神様にお供えされました。



# 財団設立55周年記念 「京の郷土芸能のつどい」

2025年2月22日、ロームシアター京都メインホールにて「京の郷土芸能のつどい」を開催します。京都からは久世と壬生の2つの六斎念仏、千本ゑんま堂大念佛狂言、京都鬼剣舞、そして広島から芸北神楽・有田神楽団の5団体が出演します。また、ゲストには落語家の桂南光さん、コメンテーターには佛教大学教授の八木透さんをお迎えします。

テーマは「風流の中の鬼」、伝統の中に伝えられてきた鬼伝説やユネスコ無形文化遺産に登録された「風流踊」の魅力をたっぷりお届けします。

ふだんは現地ではしか見る事のできない個性豊かな郷土芸能をご覧頂ける機会です。皆様のお越しをお待ちしております。

なお、会員様へはご招待枠もご用意しています。  
詳細は12ページをご覧ください。



桂 南光さん



八木 透さん



## 出演団体の皆様よりメッセージを頂きました

### ◆<sup>ありだ</sup>有田神楽団のご紹介

有田神楽団の正確な起源は定かではありませんが、北広島町の千代田地域一帯の神社に奉仕しておられる、神職井上家に伝わる膨大な古文書の中に「荒平の舞」という詩帳があります。その中に、天正16（1587）年霜月の奥書があることから、恐らく戦国時代末期頃には、すでにこの地方では氏神社を中心として、今日の神社神楽が演舞されていたものと思われます。

団員は有田八幡神社を中心とした氏子の人々によって編成され、現在10代後半から70代まで約20名おり、秋の収穫を祝福し氏神様に感謝する神事として今日に伝承して参りました。

「神降し・天の岩戸・八岐大蛇」の3演目は昭和29年に広島県無形民俗文化財に指定されております。2月のロームシアターでの演舞、ぜひご覧ください。お待ちしております。

有田神楽団 団長 立盛 翔太



### ◆地域一体となって受け継がれる久世六斎

京都の南西、久世に伝わる久世六斎は、蔵王堂光福寺より発祥したといわれています。当初は念仏六斎を伝えていましたが、その後空也堂系の芸能六斎へと変遷していきました。

今は16の楽曲を保存しており、念仏に関するものは御詠歌と発願文だけで、他の曲は浄瑠璃、長唄、地歌、祭囃子等から取り入れたものです。「祇園ばやし」は申すまでもなく祇園祭のお囃子から取り入れたものです。また難曲とされる「やぐら」や「源平盛衰記」など太鼓曲に特徴がある六斎でございます。国の重要無形文化財に指定されており、令和4年にはユネスコ無形文化遺産に登録されました。後継者育成が難しい中、地元の小学校はじめ地域の皆様のご協力のもと保存継承を行っています。

「京の郷土芸能のつどい」で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

久世六斎保存会 会長 山口 章司



### ◆<sup>おにげんばい</sup>悪魔退散、万民の幸せを祈る踊り、鬼剣舞

鬼剣舞は1300年前に奈良で始まり、山伏によって全国に伝わり、現在は岩手県北上地方で踊られている民俗芸能です。悪魔退散、天下泰平、五穀豊穡を願って大地を踏んで踊ります。京都から岩手に長年通って「岩崎鬼剣舞」から指導を受け、認可されて「京都鬼剣舞」ができました。上京区の西陣小学校に集まって練習しています。〈公演・奉納〉2月：西陣マルシェ、4月：堀川桜まつり、8月：岩手県の北上みちのく芸能まつり、9月：茨城県の一言主神社奉納、秋：京都市内を中心に様々な地域まつりやイベント、11月：清水寺アテルイ・モレ碑法要（5年に1回）、12月：奈良県の一言主神社奉納など。このたびは、2月22日にロームシアターで皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

京都鬼剣舞 庭元 伊東 睦子





鴨川沿いの花街めぐり《後編》～祇園町から鴨川へ～

京都市文化観光資源保護財団 アドバイザー 松田 彰 (写真撮影も)

祇園町は1881（明治14）年に甲部と乙部に区分されます。甲部が現在「祇園甲部」と呼ばれるところで、四条通を挟んで北が新橋通、南が建仁寺通、西が大和大路通、東が東大路通に囲まれた範囲。八坂神社の門前町として栄え、江戸時代の茶屋建築の面影を残す風情ある町並みが独特の情緒を創り出しています。

祇園新橋は京都五花街のうち「祇園甲部」に属しますが、乙部は花見小路通と東大路通の間で、四条通北側の通り3本（東富永町、中末吉町、新橋）にまたがっています。1949（昭和24）年に東新地と改称され、55（同30）年頃に「祇園東」となりました。このあたりは膳所藩の京屋敷があった場所で、“膳所裏”とも呼ばれていた地域。1870（明治3）年にこれらの屋敷が撤去された跡にお茶屋が建ち、祇園町の花街が広がっていったのです。

花見小路を南に下ると「祇園町南側」。四条通から南に約250メートル行くと、1913（大正2）年に建った木造瓦葺の祇園甲部歌舞練場があります。花見小路から正面奥にある玄関は、入母屋造の主体部に唐破風の車寄を接続した形態で、入口に相応しい堂々とした外観を備え、舞台のある本館は記念的な木造の大劇場建築であり、国の登録文化財となっています。



祇園甲部歌舞練場

歌舞練場から建仁寺の境内を通って南に行き、八坂通を鴨川の方に行くと「宮川町」。このあたりはかつて広大な鴨川の河原であり、祇園社の神輿洗いがここで行われていたので宮川とよばれ、この川筋に町ができ宮川町になったといえます。1666（寛文

6）年に宮川町通が開通し、4年後に鴨川護岸の石積みが完成して町並みが整い、茶屋町として発展してきました。

宮川町と鴨川の間には、かつて電車が走っていました。鴨川東岸は、1894（明治27）年に琵琶湖疏水が開削され、鴨川と疏水の間で京阪本線が造られたのです。1910（明治43）年に天満橋—五条間が開通し、5年後に三条まで延伸されてから87（昭和62）年までの72年間、宮川町のすぐ横を京阪電車が走っていたのです。京阪本線の地下化に伴い宮川町の横を走る電車の姿が消え、琵琶湖疏水も暗渠になって現在の姿になりました。

宮川町通を北に上がり、団栗橋を西に渡って高瀬川沿いに下りましょう。そして仏光寺通を東に行くと、突き当たりが鴨川です。ここから鴨川西岸の「みそそぎ川」沿いを五条大橋まで下ると、広い空と鴨川の風景、そして爽やかな風が心と体を癒してくれます。



《歩いた距離 2.9キロ、歩いた時間 0.8時間》

「12月寄附月間」の特別の寄附のお願い

12月は「寄附が人々に幸せを生み出す社会をつくるきっかけを提供する」という趣旨の寄附月間が設定されており、当財団もその趣旨に賛同し、活動に参加しております。12月のご寄附は令和6年の税控除の対象にもなりますので、ぜひこの機会に特別にご寄附をお願いいたします。



**ご寄附の方法** 保護財団ホームページ・寄附メニューの「【期間限定】12月寄附月間コース」より、クレジットカードでご寄附頂けます（下の二次元コードを読み取りください）。

1万円以上のご寄附を頂いた方には、旬の京都の情報満載のダイアリー「京都限定 京都手帖2025」とマガジン「月刊京都12月号」をお送りいたします。京都手帖の表紙は柚子湯とシラサギのリバーシブルです。



## 会員特典事業

会員の方限定に文化財特別鑑賞等にご招待を行います。参加ご希望の方は、各内容によりお申し込みください。

### 事業No.24005 京都市観光協会主催(財団後援事業)「第59回京の冬の旅 非公開文化財特別公開～秘められた京の美をたずねて～」ご招待

「古都京都の文化財」が平成6年(1994)に世界遺産に登録されてから30周年を迎えるのを記念して、世界遺産寺院の通常非公開の文化財が特別公開されます。また再興20周年を迎える「洛陽三十三所観音霊場」の寺院にもスポットをあてた特別公開が行われますので、ご招待いたします。

●対象期間 令和6年1月10日(金)～2月28日(金)

※但し、対象寺院によって公開日が異なり、都合により拝観できない日が生じる場合もございます。最新情報は京都市観光協会のHP「京都観光Nari」の「京の冬の旅」をご確認ください。

●対象 建仁寺西来院、頂法寺(六角堂)、平等寺(因幡堂)、地藏院(椿寺)、鹿苑寺(金閣寺)方丈、東本願寺宮御殿・桜下亭、清水寺随求堂、仁和寺経蔵・五重塔

以上8ヶ寺(ご注意:「京の冬の旅」のすべての特別公開寺院が対象ではありません)

●申込定員 150名

※共通拝観券にて、上記対象箇所からご希望の2ヶ所に上記期間拝観して頂けます。

※招待券は、12月末を目途にお送りします。



建仁寺 西来院 甘露門

### 事業No.24006 財団設立55周年記念「オリジナル日本手ぬぐい」の進呈

当財団は令和6年12月に設立55周年を迎えました。これを記念して当財団が「京の郷土芸能のつどい」に出演した民俗芸能をイラストにした日本手ぬぐいを製作しましたので進呈します。

●申込定員 150名



### 財団設立55周年記念「京の郷土芸能のつどい」ご招待

本会報誌10頁でご紹介した「京の郷土芸能のつどい」につきまして、以下の通りご招待いたします。ご希望人数に応じてお申込下さい。

●日時 2025年2月22日(土) 13:30～16:30頃(12:30開場)

●場所 ロームシアター京都 メインホール(左京区岡崎最勝寺町13)

●出演団体 有田神楽団(広島県)、京都鬼剣舞、久世六斎保存会、千本ゑんま堂大念佛狂言保存会、壬生六斎念仏講中

●共催 京都市

※チケットは、2月上旬を目途にお送りします。



### 事業No.24007 財団設立55周年記念「京の郷土芸能のつどい」1名様ご招待

●申込定員 50名

### 事業No.24008 財団設立55周年記念「京の郷土芸能のつどい」ペア席(※)ご招待

●申込定員 25組50名

※会員でないご友人・ご家族の方ともお越し頂けます。

■申込方法 当会報にあわせて送付しています「会員ご招待・優待事業申込」ハガキ又は当財団ウェブサイト(<http://www.kyobunka.or.jp>)の会員サイトからお申し込みください。お申し込みの際は、必ず事業No.をご記入ください。

■申込資格 会員本人様1名に限る

■申込締切日 12月19日(休)必着

※上記の会員事業は、申込多数の場合は抽選とし、当選者の方のみご送付させていただきます。

※会員限定の事業となりますので、会員期限をご確認の上ご応募ください。なお、会員期限が切れておられる方は継続のご寄付をお願いいたします。

■お問合せ (公財)京都市文化観光資源保護財団 事務局 会員事業担当  
TEL 075-752-0235(平日9:00～17:00)、FAX 075-752-0236